

ケヤキ庭石事件の再来、 土地転がしの中央保育所移転 疑獄を許さない

中央保育園建て替えは現地で児童館と一体で建て替える計画が確定し、福岡市は6億5千万円の予算を組んでいました。2011年7月に元港湾局長が不動産会社福住に天下り、直後の同年7月26日の市政運営会議で現地立替から他へ移転に変更。その数日後の同年8月初旬に福住は元の持ち主企業から7億6600万円で予定地を購入。この土地は2年前から売りに出されていました。7月26日の市政運営会議では中央保育園移転予定地が検討に上がっていましたが、元の持ち主企業には問合せしていません。移転決定後の2011年10月6日、福岡県警は中央保育園移転予定地隣にパチンコ店が営業

申請を出しているのに周辺に風俗営業法の関係から教育・福祉施設がないかの問合せがなされていますが、福岡市はそのようなものは存在しないと回答。2013年4月19日、福岡市は福住から予定地を8億9900万円で購入。移転予定地の近隣にはラブホテルやパチンコ店があり、しかも保育園前は一方通行の狭い道路しかなく、災害時の避難にも問題があり、保育園利用者や保育士、多くの市民が中央保育園移転に反対しています。議会で多くの質問が出されています。住民監査請求は棄却されましたが、福岡市監査委員は、「多数の疑問点が残る」といった異例の意見を高島宗一郎福岡市長に提出しています。今回の中央保育園問題は福住が短期の土地転がしで1億3千万円の利益を得る疑獄事件と言えます。高島宗一郎市長は8億9900万円の返還を求める住民訴訟を福岡地裁に提訴されました。ケヤキ庭石事件と全く同じ構図です。

早良みなみ塾の 成果を生かす 市民参加型 予算の拡充 を提案します

25年度第1回全体フォーラムに参加し、活動報告と今後の取り組みを聞きました。「早良みなみ塾」は農業、自然環境、歴史・文化、イベント・特産品、ふるさと・人づくりの5分科会で早良南部地区の魅力アップと人のつながりによる地域づくりが図られて

早良区では3年前から南部地区の活性化を図るため、「早良みなみ塾」を市民と区役所との協働で取り組んでいます。私は9月8日に行われた平成



います。各部会の皆さんの熱意ある活動は確実に成果を上げていると感じました。イベント・特産品分科会は11月10(日)に脇山中央公園で「早良みなみマルシェ」を開催。早良みなみ産を中心とした食材、料理、雑貨、工芸品などの軽トラ市と、S-1グランプリ(自慢料理を競う)を企画しています。

「交通権」移動の自由実現に向けて取り組んでいます！



高齢化が進み、買い物や通院などに問題が生じている地域が増えています。福岡市は「生活交通条例」を作り交通の確保のための支援をしています。私は9月30日に美和台地区コミュニティバスの取り組みを調査しました。美和台では自治協議会が中心に、商店街や和白病院と提携して2回のコミュニティバス運行の社会実験をしています。料金は一律200円、ランドパス、エコカードが使える、回数券の販売もしてい

ます。しかし、条例の対象に該当しないという理由で福岡市の助成はありません。美和台の取り組みのポイントは、①バス停の間隔が50メートル、②路線がS字の1コースでわかりやすい、③地域全体の取り組みで地域の活性化に役立っている、にあります。社会実験中にバスの利用者が増えたということから、高齢者の外出が増えたと考えられます。今回視察して感じたことは、高齢者の移動の自由を保障する取り組みとして、また街づくりの取り組みとして福岡市が誇れるものと感じました。フランスでは1982年に国内交通基本法が作られ、移動の自由を保障する「交通権」が明文化されました。美和台の取り組みは「交通権」につながる取り組みと感じています。早良区においてもこの様な取り組みを支援していきたいと考えています。